

第5次岡谷市総合計画に対するパブリックコメントの公表について

岡谷市意見提出手続実施要綱（別紙）第8条第2項に基づき、第4次岡谷市総合計画に対して提出された意見を公表します。

なお、パブリックコメントは、8月26日から9月30日まで行い、寄せられた意見は岡谷市基本構想審議会に報告し審議の参考としました。

《諮問案に対するパブリックコメント》

市民意見

2次産業従事者がH17年14,535人に対し、27年13,684人と851人の減少は由々しい問題である（全国平均を上回っているとはいえ）。長年産業集積地として精密・電子に加え、新規成長産業への参入を図って来た本市として、更に強力な施策が必要とされる。先ず財源の確保として健全財政面からして、新規枠はかなり難しい。最近の地震・台風を見ても災害がいつやってくるかわからない。これからの財源確保の一つとして財政全体を見直し、当時は必要とされた補助金事業も、時代の変化に合わせた厳格な検証が要求される。時代の流れに沿って全廃又は一部廃止という荒治療も止むを得ない。これは市政全般について従来から出ている課題でもある。

多様な技術を持つ企業が集積している本市として、前々から航空機産業分野へ参入してきた。周知の通り、飯田市多摩川精機(株)が全国に先駆けて着手し、かなりの実績を挙げて来た。長野県としても大変誇りである。岡谷・諏訪地区においても地域活性化の実行を上げるためにも航空機参入が緊要だった。本市は伝統的にも新しいものを受け入れて来たし、最近話題のAI（人工知能）の利用にしても幾つかの市内企業は十分な下地を持っている。世間の価値観が著しく変化している中で、この頃では新製品が要求され更新のサイクルも早い。システム分野に次いで、航空機のメンテナンス関連のフォーラムが開かれている。市内企業の持つ高技術が埋もれることのないよう、新事業に取り組んでいただきたい。